

資料2

NO	基本目標	基本的な方向	具体的施策(大)	具体的施策(小)	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	取組方針 (自己評価)	本部の意見・評価	本部評価	取組方針 (本部評価)	審議会の意見	取組方針 (審議会 評価)	対応
1	1. 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする	(1)民間企業の誘致による雇用の創出	①民間企業の誘致の推進	ア. 上里サービスエリア周辺地区及び児玉工業団地への誘致活動	産業振興課	上里サービスエリア下り線側の大和ハウス工業が取得した土地については、大和ハウス工業が営業活動を行っているのと併せ、埼玉県企業立地課とも連携、協力し、企業誘致を進めている。	上里サービスエリア下り線側については、引き続き、大和ハウス工業が営業活動を行い、企業誘致を進めているところである。一方の児玉工業団地内には、アルミ精密部品加工会社が工場を建設中であり、KPIの目標を達成しているところである。	順調	大和ハウス工業とは引き続き、情報共有するとともに、埼玉県企業立地課とも連携、協力しながら企業誘致を進めていく。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	順調	継続		継続	
2	1. 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする	(1)民間企業の誘致による雇用の創出	①民間企業の誘致の推進	イ. 民間活力を導入した農村公園の整備	産業振興課	農村公園整備事業者の選定を公募型プロポーザル方式により実施し、埼玉ひびきの農協を開発事業者として決定し、20年の事業用定期借地権利を設定する。平成29年11月19日に農村公園用地内に農産物直売施設「アグリパーク上里」を開設する。	事業用定期借地権の締結時期及び工事着手時期については、当初の予定より遅れをみたが、平成29年11月19日に埼玉ひびきの農協の農産物直売施設「アグリパーク上里」が開設となった。	順調	農村公園の整備、運営については、埼玉ひびきの農協が実施するが、農村公園を中心として、農協と町で連携・協力して認知度の向上を目指す。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	順調	継続		継続	
3	1. 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする	(1)民間企業の誘致による雇用の創出	①民間企業の誘致の推進	ウ. 新たな工業系土地利用の調査・研究	産業振興課	上里サービスエリア下り線側の大和ハウス工業所有地への企業誘致が最優先と考えており、大御堂地内の児玉工業団地の拡張や下水道用地の活用方法については、埼玉県企業立地課等からの指導を仰ぎながら、検討する。	新規企業立地数に係る指標に関しては、順調に推移していると思うが、新たな工業系土地利用の調査・研究に関しては、十分であるとは言えない。平成29年度に関しては、埼玉県企業局を訪問し、本町の工業系土地利用について、担当者と話し合いをもったが、今後も、企業局、企業立地課等、関係機関と連携を図り検討していきたい。	概ね順調	新たな企業の町内への進出は、雇用の創出、税収の増加、転入による人口の増加等、地域経済への波及効果が期待できるため、上里サービスエリア下り線側を中心に企業誘致を進めているが、工場適地への誘致の状況を見ながら、新たな工業用地の利活用について段階的に検討する必要がある。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	概ね順調	継続		継続	
4	1. 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする	(1)民間企業の誘致による雇用の創出	①民間企業の誘致の推進	エ. 新規立地企業に対する奨励金の交付	産業振興課	新規立地企業を誘致するための優遇措置として、新規立地企業に対し、施設奨励金、雇用促進奨励金、法人町民税奨励金を交付している。	企業立地に係る指標に対しては、目標を達成している。平成29年度については、(株)中央軒煎餅に対し、施設奨励金を交付している。また、(株)シェリエに対しては、施設奨励金及び法人町民税奨励金を交付している。	順調	企業が新規での立地を考える際に、資金面、労働力の確保、画地の状況等を考慮すると思われる。検討項目の一つとして、市町村の優遇制度も考慮していると考えられることから、優遇制度を継続させ企業誘致を推進する。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	順調	継続		継続	
5	1. 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする	(2)農業の担い手の確保	①新規就農者に対する支援		産業振興課	平成29年度については、4名の新規就農者に対し給付金を給付し、独立就農後の不安定な経営を支援した。	独立営業者や法人雇用、親元就農した者の人数が、平成29年度では9名を数え、KPIに対しては効果があったと思われる。	順調	平成29年度を含め、ここ数年の新規就農者は10名程度で推移しているが、法人雇用の人数の割合が比較的高く、独立就農する者の割合が決して高くないのが現状である。今後、新規就農相談窓口である産業振興課と埼玉県本庄農林振興センターが新規就農希望者に係る情報共有をこまめに行い、互いに連携、協力していくことや、支援策のPR方法等も検討しながら、新規就農者の確保に努めたい。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	順調	継続		継続	
6	1. 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする	(2)農業の担い手の確保	②新たな担い手確保策の検討		産業振興課	埼玉ひびきの農協、埼玉県農業共済組合、児玉郡市内の市町と連携し、「児玉地域担い手育成総合支援協議会」を組織しており、そのなかで、新規就農希望者が就農できる体制を整備するために「児玉地域明日の担い手育成塾」を設置し、担い手の育成に取り組んでいる。	平成29年度については、独立就農、法人雇用、親元就農した者の人数がほぼ同数で、目標の数値である10人には達しなかったものの、9人の新たな就農者を確保することができた。就農希望者に対する支援策や農業の魅力が伝わるPRチラシの作成などの対応により、新規就農希望者や新規就農者を増やしていきたい。	概ね順調	高齢化を理由に担い手が減少していくなかで、今後、埼玉県本庄農林振興センター、埼玉ひびきの農協等、関係機関と情報共有し、連携を図りながら、新たな担い手を確保に努めたい。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続		継続	
7	1. 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする	(2)農業の担い手の確保	③農地の集積・集約の推進		産業振興課	上里中部土地改良区内の60・61工区である地区(中部第二地区・農地面積約79ha)を対象に農地中間管理事業を実施した。	平成27年度から、毎年度対象地区を選定し実施している。過去の実施地区において、農地中間管理機構への集積面積は約3割となっており、今年度の地区においても約3割の面積を集積した。	順調	最終的には、町内全域を対象に実施する予定であるため、引き続き実施する必要がある。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	順調	継続		継続	・事業内容の一部見直し
8	1. 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする	(3)農業の6次産業化による「かみさとブランド」の確立	①特色を生かした6次産業化の検討		産業振興課	埼玉県本庄農林振興センターが主催する6次産業化に係る研修に参加。	個人的に梨ゼリー、いちごプリン、ニンジンジュース等、6次産業化に取り組む者はいるが、ブランド化するためのノウハウの不足や施設整備に課題があるため、「かみさとブランド」の確立につながるような商品開発には至っていない。	不調	町内には6次産業化による「かみさとブランド」の確立につなげられるような資源が豊富にあるなかで、それらを活用し、商品開発するノウハウがない。現在、埼玉県本庄農林振興センターでは6次産業化に係る事業を行っているため、町内での掘り起し作業を行い、事業への参加を促すなど、県と連携を図りながら取り組みたい。	継続	目標値は達成できなかったが、「かみさとブランド」確立という目標に対して効果的な事業であると考えられるため、今後も引き続き事業を継続していくことが望ましい。	不調	継続	・開発に長けた人物の登用(セミナー等の開催)が重要。 ・ブランド化を推進している個人事業者たちを集めて組織として推進すればいいのではないかと。 ・町独自にセミナーを開催するなど、町としてのアピールが必要。 ・官民連携の体制作りが必要であると考える。 ・農産物のブランド化は長期間の努力が求められる。隣町岡部のプロコリーがブランド化されたのも並々ならぬ努力があったと聞く。上里町は生鮮野菜の宝庫。最盛期の作物を今日広く利用されている冷凍野菜や真空パックとすることを考えてはどうだろうか。「ふれあいまつり」などで販売し、意見の集約をしてみたい。 ・開発に必要な機械などが整備された場所はあるか。	継続	・事業内容の一部見直し

NO	基本目標	基本的な方向	具体的施策(大)	具体的施策(小)	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	取組方針(自己評価)	本部の意見・評価	本部評価	取組方針(本部評価)	審議会の意見	取組方針(審議会評価)	対応
9	1. 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする	(4)起業家への支援	①創業支援の仕組みづくり		産業振興課	平成29年12月に創業支援事業計画を策定し、基本的な情報提供や金融機関等につなぐ等を目的とした上里町創業サポート窓口を産業振興課に設置した。また、支援機関である上里町商工会や本庄早稲田国際リサーチパークが実施した事業を広報で掲載し、周知を行った。	支援機関である上里町商工会が実施した「創業セミナー」には5名程度、本庄早稲田国際リサーチパークが実施した「創業塾」には20名の参加があったが創業には結びつかなかった。	やや不調	地域において創業を希望する者を支援し、創業に結びつけることは地域に活性化をもたらすものであり、必要な事業と考える。策定された事業計画は平成29年1月4日～平成31年3月31日までの計画となっているため、期間延長するための計画変更を検討している。	継続		やや不調	継続	・創業する人がいないわけではない。 金融機関と連携するなどして、対象者の情報を集めることが重要である。 ・役場の周知が足りない。 ・研修参加者の総計ではなく、上里町民が何人参加したかが重要ではないか。	継続	
10	1. 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする	(5)女性・高齢者の働く機会の確保	①就職相談とセミナーの実施		産業振興課	産業振興課に相談窓口を設置し、ハローワークの求人情報を提供し、就職相談に応じている。	平成29年度については、6件の就職相談があった。相談者のほとんどが外国人であり、目標の数値に達しなかったものの、KPIIに対する程度の効果があったと考える。	概ね順調	町で提供している情報は基本的にハローワークで提供している情報と同様であるが、最新の情報でないことや、就職に際必要な書類を発行できないのが決定的な違いである。今後、広報等を活用し、身近なところで就職情報が入手できることが確認できれば、KPIIに対する効果が上がると考えられる。	継続		概ね順調	継続		継続	
11	1. 町の資源を活かして、仕事をつくり、産業を盛んにする	(5)女性・高齢者の働く機会の確保	②元気な高齢者が活躍する場の充実		高齢者いきいき課	健康で活動意欲のある高齢者に対し、働く機会を確保するため上里町シルバー人材センターが安定的に運営できるよう補助金を交付した。「家事支援サービス」の担い手を確保するために、研修等を開催し修了者をシルバー人材センターへの登録に繋げた。	目標値は達成できなかったが、全国的にシルバー人材センターの登録者は減少傾向にあるなかで横ばいもしくは微増という状況は、健康で意欲のある高齢者への機会の提供という面から、一定の効果があったと考えます。	概ね順調	高齢者は増加していく状況にあり、またシルバー人材センターが町の総合事業の「家事支援サービス」の担い手となっていることから、事業の継続は必要である。ただし、定年延長や再雇用等、高齢者を取り巻く環境及び高齢者の意識の多様化も考慮し、シルバー人材センターの周知方法にも工夫が必要と考えます。	継続		概ね順調	継続		継続	
12	2. 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む	(1)町の魅力を全国へ情報発信	①積極的なタウンプロモーションの展開	ア. 町公式ホームページのリニューアルとSNSの活用	総務課	平成28年12月に町ホームページをリニューアルし、平成29年3月までは試行として記事掲載の承認者を総務課長にしていたが、4月より各課長を承認者とし、より早く情報を掲載できるようにした。またリニューアルと同時にフェイスブックもホームページ上で閲覧できるようになり、各課で以前よりも積極的に記事掲載を行った。また、子育て支援に特化したサイトを平成29年12月に公開した。	リニューアル前のホームページと現在のホームページのアクセス数を比較すると、予想を超えるデータとなっており、町の宣伝に効果があると思われる。	順調	今後はさらに欲しい情報を見つけやすくするよう、具体的には「〇〇から探す」ボタンから各種サービスへ展開していきけるような編集を検討していく。	継続		順調	継続	・深い情報をもっとホームページで公開する必要あり。	継続	
13	2. 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む	(1)町の魅力を全国へ情報発信	①積極的なタウンプロモーションの展開	イ. 「広報かみさと」の充実	総務課	記事内で文章だけだったものを、イラストや図などを多めに使い、より見やすくなるよう心がけた。またユニバーサルフォントを使用しており、どの年代でも読んでいただけるような校正となるよう取り組んだ。「ふるさと広報制度」を平成28年度に立ち上げ、町外の方でも送料自己負担で広報を手に入れることができるようにした。郡市の広報研究会を立ち上げ、見やすい広報誌づくりについて意見交換などを行い、3町で平成30年1月号に年賀状をデザインした表紙を作成し、その取り組みが「月刊広報」に掲載された。	広報は毎戸配布なので町内の方には手にとり見てもらえるようになっているが、概ね評価を得ている。ふるさと広報制度については1名の方が利用している。	概ね順調	今後も見やすい広報誌づくり研究し取り組んでいく。ふるさと広報制度についても利用者が増えるよう宣伝に取り組む。また専門誌に掲載されるのも1つの情報発信となるので、広報コンクールなどに取り組んでいく。	継続		概ね順調	継続	・七月現在の町の世帯数は12,691戸、広報を毎戸配布して何人が閲覧するのか、私の得た情報だと約1割しか見ないという。本部評価「概ね順調」は疑問。	継続	
14	2. 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む	(1)町の魅力を全国へ情報発信	①積極的なタウンプロモーションの展開	ウ. データ放送サービスの活用	総務課	データ放送の入力は総務課とくらし安全課にある端末でできるようにしており、防災関係だけでなく、広く町のイベントや周知したい内容について1月1記事を目標にサービスを活用した。	町の行事案内(マラソン大会、ふれあいまつり、防災フェスティバル等)だけでなく、選挙啓発や職員採用など、多様な情報を掲載することにより町の情報を広く発信するよう努めた。	順調	今後も様々な情報を提供できるよう、内容を精査しながら月1回以上を目標に取り組んでいく。	継続		順調	継続		継続	
15	2. 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む	(1)町の魅力を全国へ情報発信	①積極的なタウンプロモーションの展開	エ. 「こむぎっち」による町のPR	総務課	「こむぎっち」については、平成28年度にエアー着ぐるみを追加作成し、現在は、計3体を保管している。当初作成の着ぐるみは主に貸し出し用として用意し、エアータイプについてはイベントで利用するようになっている。町主催イベントや県のゆる玉応援団イベント、ゆるキャラグランプリ、近隣市町のイベントなどに参加した。また、クリアファイルやシールをリニューアルし、ワープ上里にて委託販売している。	町外のイベントに積極的に参加し、「こむぎっち」による町のPRを行った。「こむぎっち」が注目を集めることで、町のイメージが良くなっていく。初めて「こむぎっち」を見た方から「かわいいね」と言っていたり、以前、上里町に住んでいたという方から「なつかしい」などのコメントをいただいている。活動回数が増えるほど皆さんの笑顔がいただけるという実感があり、町のイメージアップに繋がっていると考えている。	順調	今後についても県や県内市町、隣接市町で参加要請されるイベントについて、積極的に参加し、情報交換も行いながら他市町と連携を強化し、「こむぎっち」による町のPRに力を入れていきたい。	継続		順調	継続		継続	
16	2. 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む	(1)町の魅力を全国へ情報発信	②ふるさと納税制度を活用した特産物のPR		総合政策課	ふるさと納税返礼品として、寄附者に町の特産物を送付した。 主な返礼品・・・彩さい牛:32体、梨(彩玉等):10件、いちご:8件 各種イベント等での上里産農産物のPR、梨MAP作成、農協直売所への情報コーナー設置等(産業振興課)	返礼品として特産物を味わって頂くことで、魅力を直接伝えることができた。各種イベント等やHP上での特産品紹介により、特産物を広くPRできた。	概ね順調	町の取組や魅力(上里ゴルフ場、乾武マラソン等)を伝える返礼品等の検討を含め、更なる町の魅力や特産物をPRしていく。	継続		概ね順調	継続		継続	
17	2. 「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む	(2)観光事業の推進による交流人口の増加	①民間活力を導入した農村公園の整備		産業振興課	公券型プロポーザル方式により、埼玉ひびきの農協を開設事業者として選定し、平成28年11月に20年の事業用定期借地権利を設定し、平成29年11月19日に農産物直売所「アグリパーク上里」が開業する。	運営主体である埼玉ひびきの農協は「アグリパーク上里」を開業させ、土、日曜日を中心に高速道路利用者等、新たな顧客を獲得し、客足を伸ばしている。年度途中の開業であったため、目標としていた数値には届かなかったが、来客数は順調に推移している。	概ね順調	埼玉ひびきの農協によると、「アグリパーク上里」の開業前後の来客の動向を見ると、既存の客が減少する一方で、高速道路利用者等、新たな顧客を獲得できたことである。今後、既存客の減少を抑えることに加え、新しい顧客を更に獲得するための方策として、イベントの開催や新たな事業展開などが考えられるところである。上里SA周辺を活性化させる意味でも、農協と連携、協力していきたい。	継続		概ね順調	継続	・年間来客数が8万5千人で達成度が「未達成」で「概ね順調」と言えるのか。PDCAサイクルを駆使すべき。	継続	

NO	基本目標	基本的な方向	具体的施策(大)	具体的施策(小)	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	取組方針(自己評価)	本部の意見・評価	本部評価	取組方針(本部評価)	審議会の意見	取組方針(審議会評価)	対応
18	2.「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む	(2)観光事業の推進による交流人口の増加	②観光農業の推進		産業振興課	平成29年11月19日、農村公園用地に、埼玉ひびきの農協が運営する農産物直売所「アグリパーク上里」が開業した。施設内には、町の情報発信コーナーを設置し、町の観光パンフレットの配置や上里SA周辺で操業している事業者(農協、上里センター、中央軒煎餅)のPRパンフレットを作成し、町の観光PRに努めた。また、左記の3者に上里町商工会、上里町を加えた5者で、イベント等の開催など事業者間の相乗効果を図る目的で、定期的に打ち合わせを行っている。	「アグリパーク上里」は年度途中の平成29年11月19日に開業し、年度末までの来場者は8万5千人と、目標の数値である15万人には届かなかったものの、年間ベースで考えると約24万人の来場者数となり、進捗の度合は順調と思える。	概ね順調	「アグリパーク上里」の来客数の推移を見ると、平日の来客数は前年よりも落ち込んでいるものの、土曜日、日曜日の来客数は、対前年比150%程度となっており、高速道路利用者等新たな顧客を獲得したことがうかがえる。こうした傾向を敏感に捉え、継続して町の観光パンフレットを配置するとともに、新たに町の観光振興につながるようなPRチラシを作成するとともに、上里SA等を活用したイベントへの参加し、農村公園周辺の集客の増加に努めた。	継続	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。	概ね順調	継続	・項番17と同意見。町内に「観光協会」を設立すべき。そうすることで堂々と活動できる。 ・神流川自然公園を生かしバーベキューができる施設をつくる。牛肉、豚肉、野菜はアグリパークで販売し、手ぶらで楽しめるよう工夫する。海産物は日本海側より直送し土日祝に提供。スマートインターを利用する東京からの集客を狙う。 ・各種店舗が地元農産物を置いている。そんな中でアグリパーク上里はどう対応するのだろうか。地元住民の利用度が低いのは何故だろう。遠路立ち寄る客がリピーターとなるだろうか。生産・出品者の意識はどうなのだろうか。品数、価格設定といろいろな立場で検討してみたい。	継続	
19	2.「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む	(2)観光事業の推進による交流人口の増加	③上里ゴルフ場の活性化		まち整備課	利用者数の目標値達成のため、管理事業者と連携し、割引サービス券の導入等を行った。また、クラブハウス設備や駐車場の修繕などの施設改修工事を行い、利用者が快適に利用できるように利用環境の整備にも努めた。	利用者数は増加傾向にあり、目標値を達成している。	順調	平成30年度は駐車場の修繕工事を予定しており、さらなる利用環境の整備と充実にも努めていく。今後も管理事業者と連携し、幅広く多くの利用者に利用してもらえるように利用サービスの向上を図り、利用者数の増加策を講じていく。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	順調	継続		継続	
20	2.「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む	(3)若者を中心としたUJターン促進	①町出身者の望郷心アップ事業の展開		総務課	将来、上里町への移住へと結びつける目的として、県北部地域(7市町)で連携し、移住定住促進ホームページ「埼玉北移住」を開設。望郷心を高め、Uターンを考えるきっかけとなるよう、さまざまな情報発信・アプローチを実施していく。積極的にふるさと紹介関連イベントへ参加し、町のPRを行う。	地方暮らしにとって、重要な要素として「住まい」が挙げられる。KPIの目標値は達成できていないが、北部地域連携事業として、埼玉北移住促進モニターツアーの実施、また、東京国際フォーラムにおいて、7市町で3ブースを確保し、「ふるさと回帰フェア」への出展を行い、町のPRに努めた。	やや不調	モニターツアーの参加者アンケートによると、北部地域は都心部から「そう遠くない」、「良質な自然がある」、移住定住について調べる手段は「インターネット」が最も多い結果となっている。今後も町の魅力・スケールメリットをいかした県北部のイメージアップにつなげ、積極的に情報発信・イベントに参加し、望郷心アップに繋げる。	継続	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。	やや不調	継続	・町出身者へのダイレクトメール送付事業をしてはどうか。 ・生活の第一は仕事であるため、このKPIは適切ではないか。 ・Uターン施策はかりではなく、もともと町民がくらしよくなるような施策の推進が先ではないか。	一部見直し	・事業内容の一部見直し ・KPIの追加
21	2.「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む	(3)若者を中心としたUJターン促進	②空き家対策の推進		くらし安全課	県北7市町で構成される埼玉県北部地域地方創生推進協議会の「空き家活用事業部会」として、空き家利用促進ホームページ「埼玉北空き家バンク」の充実を図った。また、のぼり旗の作成・掲揚、ちらしの作成・配布を行った。	県北7市町のうち、熊谷市、深谷市、本庄市の3市では登録があるが、他4市では無い。上里町では相談はあったものの登録には至らなかった。登録のある3市でもUJターンの利用目的は無い。	不調	今後も県北7市町の協議会による「空き家事業部会」は継続するが、一部見直し策として、スケールメリットを生かし、同協議会内に設置してある情報収集・発信事業部会とも連携しながらUJターンにおける定住の受け皿のひとつとして、周知活動を強力に押し進める。	継続	目標値は達成できなかったが、若者のUJターンにおける定住の受け皿構築のため、今後も引き続き事業を継続していくことが望ましい。	不調	継続	・空き家バンクへの登録は0件だが、町にある空き家は200件以上と聞く。事業の活動の進捗としてどうか。 ・町が危険な空き家に対して何かできる条例がない。 ・人口は減少しているが、新築を建てる人、空き家に住まない人の方が多い。KPIの変更を求める。 ・増え続ける空き家をどうするかという議論も必要。北部地域で連携した継続を求める。	継続	
22	2.「かみさと」の魅力を生み出し、発信し、人を呼び込む	(3)若者を中心としたUJターン促進	③定住促進奨励金の交付		総合政策課	平成30年4月以降に「上里町定住促進奨励金交付事業」を開始するために、近隣市町村の類似事業について情報収集し、要綱の策定を行った。	事業開始は平成30年度からなので効果は不明。近隣市町村の類似事業の検討も十分に行い、予算の確保及び要綱の策定まで完了したため、施策の進捗としては順調である。	順調	魅力ある交付事業とするためにも、交付条件や交付内容については、平成30年度以降、申請希望者の意見等を元に適宜見直しをしていく。	新規	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。	概ね順調	継続	・基本的な取り組み内容に交付金の金額を明記すべき。美里町では最大50万円と明記されている。 ・対象を25歳～35歳にし、県外からの希望を募る。新築1軒につき、100万円を交付。年間目標を5軒にするなど思い切った施策が必要。	継続	・KPIの新設
23	3.若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(1)出会いと婚活の支援	①出会い・婚活サポート事業の展開		総合政策課	県北7市町で構成される埼玉県北部地域地方創生推進協議会の「結婚支援事業部会」として、婚活イベントの実施を2件と、婚活イベントに対する支援を4件行った。	イベント参加者の後追い調査が未実施なため、婚姻届け出数に直接影響があったかは不明だが、上里町民の参加者のカップル成立数は2組とKPIを達成しており、出会いの場の提供という点では予定通り実行できている。	順調	今後も県北7市町村の共同による婚活事業を継続実施する。また、上里町民の婚活イベント参加率向上のために、効果的な広報手段等についても検討する。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	順調	継続	・はにぼんプラザに開設された出会いサポートセンターへの登録者数を増やすためのPRを展開する。埼玉県北部地域地方創生推進協議会の婚活支援事業部会(上里町が部会長)が7市町をリードしていく。目標値を10組くらいにしていかなければ地方創生ではない。	継続	
24	3.若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(2)妊娠と出産の支援	①不妊治療への支援		健康保険課	子どもを望む夫婦に対し不妊治療に係る費用の負担軽減のために、一度あたり10万円を上限5回までに助成を行う。夫婦共に受けた不妊検査に対して、2万円を上限に助成を行う。	不妊治療の助成件数は目標値を大幅に上回り、子どもを望む夫婦に対し不妊治療に係る費用の負担軽減と少子化対策の推進に寄与できた。	順調	不妊治療費助成事業を継続実施しつつ、「不育症検査助成事業」が始まった。早期に不妊検査・不妊治療・不育症検査を受診する意識の向上ときめ細やかな支援により不妊検査費等の負担軽減を図る。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	順調	継続		継続	
25	3.若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(2)妊娠と出産の支援	②妊娠期における健康づくり		健康保険課	歯周疾患に罹患しやすい時期にある妊婦に、妊娠と生まれてくる子の予防歯科への意識を高め、元気な赤ちゃんを出産するために「妊婦歯科健診」を実施する。	「妊婦歯科健診」の受診率は、目標には届かなかったが、平成28年度に比べると妊婦受診率が6%増えている。妊婦歯科健診のチラシを変更、HP、FB等で妊婦歯科健診の重要性を説明したことにより、早産のリスクや虫歯菌の母子感染等の軽減につながること周知され、母子の歯の健康につながった。	やや不調	妊婦歯科健診の機会を設けることで、口腔衛生の向上、母子の歯の健康につながる。更なる受診率向上を図るため、産婦人科への妊婦健診のご案内の掲示をお願いする等、妊婦歯科健診と受診の大切さをより周知し、受診率向上に努めていく。	継続	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。	やや不調	継続	・受診率向上に一番効果的なのは産婦人科へ広告を出すことでは。広報強化を求める。	継続	

NO	基本目標	基本的な方向	具体的施策(大)	具体的施策(小)	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	取組方針(自己評価)	本部の意見・評価	本部評価	取組方針(本部評価)	審議会の意見	取組方針(審議会評価)	対応
26	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	ア. 子育て情報サポート	子育て共生課	12月に町子育て支援サイト「むぎゅっと」を公開し子育て情報を充実させ、スマートフォンを活用した子育て支援アプリ「はぐたま」かみさとを平成30年3月に公開した。また、利便性向上のため、保育園のページに申請書類を掲載しダウンロードできるようにした。	「むぎゅっと」の公開により、年代別の子育て支援情報の掲載や既存ページの構成見直し等、よりわかりやすく、より多くの情報を提供できるようになった。また、「はぐたま」かみさとを公開したことにより、スマートフォンを活用した子育て情報の提供に寄与できた。	概ね順調	目標値を達成できるよう、イベント情報等の充実、視覚的効果の改善・改良等を行い、さらなるアクセス数の向上を図る。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続		継続	
27	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	イ. 働くパパママサポート	子育て共生課	保育所・待機児童解消に向けて、保育所2箇所において定員増を図った。また、平成32年4月の開園予定の公立保育園新園舎開設に向け、保育所検討委員会により設置数・建設位置・規模等の検討を行い、基本設計を行った。さらに、平成31年4月開園予定の民間保育所整備に向けた補助を行った。放課後児童クラブ:待機児童解消については、平成30年度の整備に向けた調整をし、整備年度である平成30年度の対策について検討した。	保育所:目標値は達成できなかったが、年度前半では、入所希望を叶えることができたと考えられる。放課後児童クラブ:新制度において受入対象を拡大しているが、受入定員の変更が行われなかったため、待機児童が発生してしまっ	やや不調	保育所:目標値の達成には届かなかったが、町民の保育所利用のニーズを確保するという目的に対し一定の成果があった。今後についても継続して待機児童数の減少策を講じていく。放課後児童クラブ:平成30年度に公立5館の受入れ人数を増加させ対応。また、待機児童数の70%を占める東小地域において民間の児童クラブが平成31年4月に開所することから継続し目標達成を目指す。	継続	目標達成には至らなかったが、目標に対する一定の効果はあるため、今後も事業を継続する。	やや不調	継続	・児童クラブの待機児童数がとても多い。1年生のニーズが高く、高学年の子が押し出されてしまう事情がある。民間保育所が設立されれば定員割れは防げるだろうが、児童館の児童数がオーバーするのではないかと。・公立と民間の不公平感をなくすサポート事業の実施を求める。・保育園ならびに児童クラブの待機児童数の目標値を10にした意図は、普通目標値は0にすべきでは。考え方が甘いのでは。	継続	
28	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	ウ. 子だくさん家族サポート	子育て共生課	第3子以降の保育料について、兄弟の年齢に関係なく無料化とする。	目標値には届かなかったが、第3子以降の保育料軽減の人数を維持しており、また昨年度の実績を上回っていることから、ある程度の効果があった。	概ね順調	引き続き第3子以降の保育料を無料化することで、保護者の経済的負担を軽減し、少子化対策を図る。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続		継続	
29	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	エ. 地域で子育てサポート	子育て共生課	0歳から就学前の子どもと保護者を対象に、保護者が気軽に育児相談やその他の子育て家庭との交流ができる地域子育て拠点を実施した。また、地域で子育てを支えあう環境づくりを推進するため、地域において親子で活動しているサークル等に対して、財政的支援を行う補助事業を実施する。	子育て支援拠点:町の広報紙等による広報は行ったが、保育園就園児が増えたことで利用対象児が減少したことが要因か、KPI目標値には届かなかった。しかし、目標値には届かなかったが、子育て親子の交流や子育てに関する悩みを相談する環境の整備につながっているという点では予定通り実行できている。親子サークル支援:窓口での申請書の配布や、電話での問い合わせはあるが、申請要件が厳しかったため申請までに至らなかった。事業としては子育てしやすい環境の整備につながるものではあるが、実績が出せなかった。	概ね順調	子育て支援拠点:目標値には届かなかったものの、子育て環境の向上のため、広報等を活用し利用者増加策を講じていく。併せて、複数箇所の実施による利用者増加に向け、新たな支援拠点の設置についても検討する。親子子育てサークル:引き続き広報等を行ったうえで、申請要件の見直し等と検討したい。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続	・0歳児から就学前の、何らかの理由で保育園等に入れない児童に対して、以前はボランティアによる「つどいの広場」というものがあった。それに代わるものを町は考えているのか。・親子サークル支援について、具体的な方向を示す必要あり。申請要件がどのくらい厳しいのか?	継続	
30	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	エ. 地域で子育てサポート	生涯学習課	全ての子どもを対象とした多様な体験・交流活動等の機会の提供と、放課後に安全かつ安心して活動できる場所を目的とした、放課後子ども教室を全小学校に設置する。	平成29年度、全小学校に放課後子ども教室を設置することができた。	順調	自己評価は順調でありながら、引き続き、放課後子ども教室設置学校の維持、ボランティアの質の向上、事業内容のさらなる充実を進める。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	順調	継続		継続	
31	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	オ. 親子ふれあい遊び場サポート	子育て共生課	公立保育園の園庭を開放し、親子で安心して遊べる場と地域の親子同士の交流の機会を提供する。	目標値には届かなかったが、親が子供を遊ばせられる環境の確保にはつながった	概ね順調	目標達成に向けて、広報等の周知に努め、事業を継続する。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続		継続	
32	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	オ. 親子ふれあい遊び場サポート	まち整備課	神保原駅南地区都市再生整備計画事業として、あおぞらパークの開園及び3号公園整備の着手を行った。	あおぞらパークの開園を行ったことにより、すでに開園済みの久保新田コミュニティ公園と併せ2件の開園となった。整備箇所数についてはKPIの2件を達成しており、予定通り実行できている。	順調	今後も残りの都市公園の整備を継続実施する。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	順調	継続		継続	
33	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	カ. 育メンサポート	子育て共生課	男性がもっと積極的に育児に関わるきっかけとして、小学校就学前の子どもと父親と一緒に参加する「パパと子どもの料理教室」を開催する。	2回にわたり料理教室を開催し、親子12組26人の参加があった。募集数を上回る応募があり、人気の高さがうかがえた。参加者のアンケートからも、男性が子供とのふれあいを通じて親子の絆をより一層深めることができたということがうかがえた。	順調	男性が積極的に育児に関わるきっかけづくりとして有効な取組であるので、引き続き継続する。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	順調	継続	・KPIが出生数のみ。これは共通にして、別の具体的KPIにしてはどうか。教室参加組数など。	継続	
34	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	キ. 子育て家計サポート	子育て共生課	満1歳未満の乳幼児を持つ親に対し、乳児が必要とするおむつの購入費用を助成することにより、乳児期の子育てに係る経済的負担を軽減し、子どもの健やかな成長の促進を図る。	対象者の申込み率は87.1%であった。多くの方に利用してもらったことにより、乳児期の子育てに係る経済的負担を軽減することができた。	順調	乳児期の子育てに係る経済的負担の軽減に有効であるため、引き続き継続することで少子化対策を図る。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	順調	継続	・オムツ購入費助成制度は申請が煩雑で、制度自体を知らない人も少なくない。これもPDCAが必要かも。・KPIが出生数のみ。これは共通にして、別の具体的KPIにしてはどうか。おむつ代助成件数など。	継続	

NO	基本目標	基本的な方向	具体的施策(大)	具体的施策(小)	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	取組方針(自己評価)	本部の意見・評価	本部評価	取組方針(本部評価)	審議会の意見	取組方針(審議会評価)	対応
35	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	ク. 子育てお出かけサポート	子育て共生課	子育て世帯が気軽に外出できる環境整備を促進するため、おもちゃ交換台やベビーカーを準備した商業施設等に対し、助成金を支給する。	事業としては子育てしやすい環境の整備につながるものであるが、既存の民間事業所等では既に設置されている場合が多く、未設置でも設置スペースが無かったりしたため、実績が出せなかった。	やや不調	設置可能な事業所の情報収集と広報等を行ったうえ、申請要件の緩和を含めた今後の事業継続方法について検討していく。	継続	目標達成には至らなかったが、目標に対する一定の効果はあるため、今後も事業を継続する。	やや不調	継続	・授乳スペースと離乳食スペースも対象にできるという。 ・若い世代の意見も反映できる制度の推進を求める。	継続	・総合戦略内の施策に関する文章を一部変更
36	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	ケ. いのちの大切さサポート	子育て共生課	成人式において、これから成人を迎える成人に対し、家庭を持つことの喜びと大切さを伝える講演会を開催する。また、町内小学5年生に対し、いのちの誕生に携わる専門職である助産師を講師とした、いのちの大切さ出前講座を実施する。	成人式において、近々結婚・出産・子育てを行う可能性のある多くの成人に対し講演が行えたため、目標を上回る実績値となった。また、いのちの大切さ出前講座においても、多くの参加者から「いのちの大切さがわかった」との感想をもらった。	順調	成人式においての家庭を持つことの喜びと大切さを伝える講演会は非常に効果があると思われるので、今後も継続する。また、いのちの大切さ出前講座についても、いのちの尊さを知ることで自分や他の人を大切にすることを育てていきたいので、継続して実施する。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	順調	継続		継続	
37	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	コ. 発育・発達すくすくサポート	町民福祉課	発達が気になる子ども等への早期支援のための事業で町内の社会福祉法人事業所へ委託しており、発達障害に関する専門的な知識を有する者(臨床心理士等)が町内8か所の保育園・幼稚園等を定期的に巡回(年3回)を行い、保育園での子どもの様子から保育士等に対して子ども及び保護者への具体的な支援について助言・指導を行った。	平成29年度は対象となる子どもがいなかった1園で未実施だったため、KPIを達成できていないが、専門的な知識を有する者が定期的に巡回し支援のための助言を受けられることにより、発達が気になる子ども等への早期支援する体制は整ってきている。	概ね順調	引き続き保育園及び幼稚園に事業の目的や必要性を理解いただき支援のための助言を受けられることにより、発達が気になる子ども等への早期支援を行うための指導・助言を継続実施していく。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続		継続	
38	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(3)子育てしやすい環境の整備	①こむぎっ子子育てサポート事業の推進	コ. 発育・発達すくすくサポート	健康保険課	発達障害等に関する知識を有する専門職員が、町内の保育園・幼稚園へ巡回訪問を24回実施し、発達が気になる子どもへの対応について、保育士等への助言を行った。保健師も巡回訪問にできる限り同行し、保育園・幼稚園等と支援方法を共有した。	軽度の発達上の問題や社会性の発達における問題が明らかになってくる5歳児で健康相談を実施することで、発達障害の早期発見・支援、就学に向けての相談に対応した。また、「ことばの相談」「うごきの相談」「発達相談」「赤ちゃん相談」「うさぎちゃん広場」「親子教室」「うさぎちゃん広場」なども実施し、発育や発達に関する相談や支援を行った。	概ね順調	軽度の発達上の問題や社会性の発達における問題が明らかになってくる5歳児で健康相談を実施することで、発達障害の早期発見・支援、就学に向けての相談に対応していく。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続		継続	
39	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(4)未来を担う子どもたちへの教育支援	①確かな学力と体力の育成	ア. 教員指導力向上研修と学力向上授業研究会の実施	教育委員会 学校教育指導室	①文教大学と連携し、教育学部の教授や准教授を招聘し、国語科と算数科における教員の指導力向上を目指す校内研修会の実施。実施状況は各小学校年6回。 ②埼玉大学等と連携し、教育学部の教授等を招聘し、共同の学びを通して教師の指導力向上を目指す校内研修会を実施。実施状況は各中学校年5回。 ③各学校へ総合的指導を行う学力向上指導員を配置し、きめ細かな教育支援を行い、学校全体の「学校力」、教員個々の「指導力」の向上を目指す。配置人数1名。 ④学び合い学習の推進を図るため、学び合い学習の先進校への視察を実施。実施状況年2回。 ⑤小・中学校の研修会の連携と町内全教職員を対象とした教育講演会の実施。講演会実施状況は年1回。 ⑥上里町全教職員を対象とした、上里町学力向上授業研究会(発表は毎年3校)の開催。研究会実施状況は年1回。	①2年間計画に位置付け、指導力向上につながる有意義な研修が実施された。 ③研修だけでなくとまらず、日々の教職員の授業改善に向けたきめ細かな支援が行われ、教職員の授業における進捗の役割となった。 ④⑤⑥校内にとまらず町内で学び合いについて見識を高めるとともに、各教職員が取り組むべき方向性を確認することができた。	概ね順調	○児童生徒に求められている資質・能力を身に付けられるよう、今後も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善に取り組んでいく。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	順調	継続		継続	
40	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(4)未来を担う子どもたちへの教育支援	①確かな学力と体力の育成	イ. 各種調査を活用した児童生徒の基礎学力の定着	教育委員会 学校教育指導室	①各種調査等から、特別な支援を要する児童生徒を事前に把握し、児童支援員や学習支援員の他、介助員や特別支援学級生活支援員を関係する学校に配置した。 ②県より委嘱を受けて3年目となる「一人一人に目を向けたアドバンスド事業」において、効果のあった取組を全校で共有した。 ③基礎学力のさらなる定着に向け、4月5日に第1回上里町学力向上推進委員会を開催し、前年度の各種調査の成果と課題を踏まえた本年度の町や各校の取組を共有した。 ④4月に実施された全国学力・学習状況調査実施後すぐに全小中学校で各学校の教職員が「自校採点」を行い、成果と課題を明らかにして授業改善を推し進めた。 ⑤全国学力・学習状況調査の結果分析を大学教授等に依頼し、調査結果に基づいた授業改善に活かした。	①児童支援員や学習支援員、介助員や特別支援学級生活支援員の配置により、個に応じた指導の充実を図ることができた。 ②アドバンスド事業の重点校では、平成29年度の全国学力・学習状況調査の結果、国語、算数いずれも全国平均を上回った。 ③④⑤全国学力・学習状況調査の結果、平均正答率を全国平均と町とを比較すると、依然として、全国平均を下回っている。しかし、前年度に比べ、着実に全国平均に近づいている。また、埼玉県学力・学習状況調査の結果からも、学力の伸びのあった児童生徒がいる。	概ね順調	引き続き、各種調査を分析して効果的に活用し、児童生徒の基礎学力のさらなる定着のため、町と学校が一丸となり、人的支援を含めた取組を実施していく。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続		継続	
41	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(4)未来を担う子どもたちへの教育支援	①確かな学力と体力の育成	ウ. 学校指導員配置による学校力の向上	教育委員会 学校教育指導室	①学校教育に対し専門的識見を有し、指導技術を身に付けており、学校力向上に実績のある前上里中学校長を「学力向上指導員(平成28年度は学校指導員)」として委嘱し、全小中学校7校に派遣した。 ②各学校の学校力向上を図るため、主に若手教員の授業力向上のため授業参観後に指導助言をしたり、教職員研修会で講演したりするなどの取組を行った。	①②平成29年度全国学力・学習状況調査の結果、平均正答率を全国平均と町とを比較すると、依然として、全国平均を下回っている。しかし、前年度に比べ、着実に全国平均に近づいている。また、埼玉県学力・学習状況調査の結果からも、学力の伸びのあった児童生徒がいる。	概ね順調	今後も引き続き、学校力向上ため、教育委員会、各学校と連携して、教員の指導力向上を通して、各学校の学校力向上を推進していく。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続		継続	

NO	基本目標	基本的な方向	具体的施策(大)	具体的施策(小)	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	取組方針(自己評価)	本部の意見・評価	本部評価	取組方針(本部評価)	審議会の意見	取組方針(審議会評価)	対応
42	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(4) 未来を担う子どもたちへの教育支援	① 確かな学力と体力の育成	エ. 特色ある体力づくりの推進	教育委員会 学校教育指導室	① トップアスリートで構成された体育実技指導員による体育授業の支援により、児童を運動好きにするとともに体力と運動技能の向上を目指す。 実施状況は各小学校50時間、配置人数2名。 ② 中学校の部活動について、スポーツエキスパートとして外部指導者を配置し、体力向上や技能向上の支援を行う。実施状況は各校2名配置。 ③ 体力向上を推進するため、全小中学校から招集し、上里町体力向上推進委員会を実施している。実施状況は年3回。 ④ 埼玉県体力課題解決研究指定校(上里中)の取組を通して、一人一人の体力課題を把握し、課題解決に向けた体育授業・体育活動の実践を行った。	① 専門的知識・技能を有したアスリートが指導に当たること、児童の意欲・技能の向上と安全確保につながった。 ② 体力・技能向上につながる効果的指導が行われた。 ③ ④ 各校・町の課題の分析を行い、課題解決策を検討・実施した。体力向上に向けた研究主題にせまり、研究集録を作成した。	概ね順調	○ 今後も継続し、県の事業を活用し、さらなる整備と拡大を図る。 ○ 日本女子体育大学等と連携し、きめ細かい分析と課題解決策の取組を実施する。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続		継続	
43	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(4) 未来を担う子どもたちへの教育支援	② 子どもの学びを支える環境づくり	ア. ALTを活用した外国語教育の推進	教育委員会 学校教育指導室	① ALT4名を小中学校7校に派遣し、小学校では5・6年生の外国語活動以外、低学年・中学年の国際理解教育にも活用するなど、外国語に慣れ親しむ学習の充実を図った。 ② 中学校でも年間指導計画に沿って、英語科の教員と共に、生徒の英語力を伸ばすため、英語におけるコミュニケーション能力の基盤となる基礎的・基本的な知識や技能の習得を図った。	① 小学校では、国際理解教育や英語活動においてALTとの授業を楽しみにしている児童の感想があったり、8月に実施した「英語でしゃべろう合宿」には各小学校から合計48名の児童が参加して英語に慣れ親しむ活動を行った。 ② ① 目標値には届かなかったものの、埼玉県学力・学習状況調査からは生徒の学力の伸びが認められている。また、中学生海外体験研修には5名の生徒が参加(アメリカ:ロサンゼルス4名、フィリピン:セブ島1名)するなど、英語に興味を持ち、外国の生活習慣や文化への興味・関心を高める児童生徒が増加した。	概ね順調	引続き基礎的・基本的な知識や技能の習得するための授業展開を工夫したり、ALT(外国語指導助手)を効果的に活用するなどの指導の充実をさらに図る。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続		継続	
44	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(4) 未来を担う子どもたちへの教育支援	② 子どもの学びを支える環境づくり	イ. 理科教育の推進	教育委員会 学校教育指導室	① 理科が得意な元校長2名・教頭1名を理科支援員として委嘱。全小学校5校に派遣し、理科の授業における観察・実験活動の事前準備及び理科授業における支援を行った。 ② 理科の効果的な指導について、教員に助言や情報提供を行うなど、教員の資質向上を図った。	① ② 平成30年4月に行われた平成30年度の全国学力・学習状況調査(平成29年度までの学習・取組内容)、質問紙調査「理科が好きな児童生徒の割合」の結果、小学校0.86、中学校0.59であり、小学校は目標値の0.82に達することができた。	概ね順調	理科支援員を配置し活用することで、理科の授業における観察・実験活動の充実及び教員の資質向上を図るとともに、子供たちの理科に対する興味・関心を高めながら学力向上に繋げていく。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	概ね順調	継続		継続	
45	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(4) 未来を担う子どもたちへの教育支援	② 子どもの学びを支える環境づくり	ウ. 中学生の自主学習の支援	教育委員会 学校教育指導室	① 小中学校にて、家庭学習の推進のために「自主学習のすすめ」などを各校作成し、配布することで啓発している。 ② 中学校3年生を対象として、学習支援と希望する進路の実現をねらいとし、「学力アップ教室」を実施している。実施状況は年間65回実施。	① 各校4月に保護者向け、生徒向け「自主学習のすすめ」や「自主学習のやり方」など作成し配布した。日々、自主勉強ノート提出させチェックを行った。 ② 高校入試に向けた自主学習の支援や学習支援を行うことができた。	概ね順調	○ 自主学習プリントの作成や自主学習ノートの作成など検討していく。 ○ 学力アップ教室の学習支援員の確保など早期に取組をしていく。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続		継続	
46	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(4) 未来を担う子どもたちへの教育支援	② 子どもの学びを支える環境づくり	エ. ICTを活用した効果的な学習の展開	教育委員会 学校教育指導室	① 上里中学校コンピュータ室のコンピュータ更新に併せ、上里中学校にもWi-Fi環境を整え、タブレットパソコン22台を含めたICT機器を導入。 ② タブレットパソコンや書画カメラなどのICTの効果的な活用方法を校内研修会や学校訪問などで各学校に指導助言及び情報提供した。	① 各種研究授業をはじめ、日々の授業においてもタブレットパソコンなどのICTを効果的に活用した授業が増えた。 ② デジタル教科書や書画カメラ、タブレットパソコンなどのICTを効果的に活用し、視覚的にもわかりやすい授業を重点的に取り入れた学校では、全国学力・学習状況調査の平均正答率が、全て全国平均を上回った。	順調	タブレットパソコンの増設やパソコンの更新に合わせ、ICT支援員を配置したり、学力向上に効果のあった学校の取組を町全体で取り組む。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	順調	継続		継続	
47	3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	(4) 未来を担う子どもたちへの教育支援	② 子どもの学びを支える環境づくり	オ. 児童生徒の個に応じた支援体制の確立	教育委員会 学校教育指導室	① 不登校対策や個に応じた相談体制をつくるために、教育相談機関として各中学校へさわやか相談員(1名)・スクールカウンセラー(1名)を配置している。計4名配置。 ② 不登校対策や個に応じた支援体制をつくるために、教育相談機関として各小学校へ児童支援員を配置している。計5名配置。 ③ 個に応じた支援体制をつくるために、小学校第3学年担当非常勤職員(神保原小1名・上里東小1名)、通訳(上里東小2名)、介助員(神保原小2名・長幡小1名・七本木小2名・上里東小3名)、特別支援学級生活支援員(上里東小1名・上里北中1名)、学習支援員(上里中1名・上里北中1名)を配置している。 ④ 生徒・保護者・学校への支援体制として小学校へスクールソーシャルワーカーを1名配置している。 ⑤ 学校・保護者・地域・関係機関が連携して子供たちへの支援のために各中学校にサポートチームを設置している。	○ 不登校の要因が複合的要因(意欲傾向・家庭環境・精神的など)がさらに複雑化する中、個に応じた相談・支援が行われた。	順調	○ 今後の児童生徒に対して、個に応じたきめ細やかな相談・支援体制を構築し、さらなる見守り体制を図る。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	順調	継続		継続	
48	4. 時代の変化に対応し、安心してくらしやすいまちづくり	(1) 安心安全でくらしやすいまちづくり	① 災害に強いまちづくりの推進	ア. 地域防災計画の見直し	くらし安全課	平成25年3月以降の地域防災計画の改定以降、日本各地で発生した大規模災害で浮き彫りになった課題等を踏まえた法令等の変更やガイドラインの発表等に対応した内容に改めることができた。	順調	いつ発生するか分からない災害時のマニュアルとして使用する。また、法令等に変更が生じた場合には迅速に対応する。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	順調	継続		継続		

NO	基本目標	基本的な方向	具体的施策(大)	具体的施策(小)	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	取組方針(自己評価)	本部の意見・評価	本部評価	取組方針(本部評価)	審議会の意見	取組方針(審議会評価)	対応
49	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(1)安心安全で暮らしやすいまちづくり	①災害に強いまちづくりの推進	イ. 災害情報伝達の充実	くらし安全課	防災行政無線(同報系)デジタル化整備工事に向けた実施設計を行った。また、登録制メールの利用促進を図り、防災講習会や防災フェスティバル、ふれあいまつり等でちらしを配布した。	現在、町民への情報伝達手段として、防災行政無線を使用した屋外拡声子局による町内放送と、登録制メールによる配信を行っている。今後、防災行政無線についてはデジタル化を予定しており、その中で、情報配信のための多重化を計画しており、より多くの手法による伝達体制の充実を目的としている。	順調	今後、防災行政無線については、デジタル化に向けた整備工事を実施する。また、登録制メールについては、利用者拡大に向けて広報を行う。	継続		順調	継続		継続	
50	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(1)安心安全で暮らしやすいまちづくり	②犯罪のないまちづくりの推進		くらし安全課	警察官OBを「安全安心まちづくり推進委員」として採用し、町内パトロールを実施した。防犯ブザーを小学校新1年生に配布した。防犯のぼり旗を全行政区へ配布した。自主防犯パトロール隊のボランティア保険代や備品購入費に対して補助金を交付した。防災行政無線による町内放送と登録制メールによる情報配信をした。	全ての取組において効果はあった。しかし、数値としては達成に至らなかった。また、防犯のぼり旗については劣化が早く、追加要望する区長が多かった。	概ね順調	今後も、防犯パトロールの実施、防犯ブザーの配布、防犯のぼり旗の配布、防犯パトロール隊への補助等、継続的に実施する。また、防犯カメラの設置についても検討する。	継続		概ね順調	継続		継続	
51	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(1)安心安全で暮らしやすいまちづくり	③交通事故のないまちづくりの推進		くらし安全課	交通安全施設整備の推進として、通学路総点検や地元区長の要望箇所に加え、交通事故マップを作成し交通事故多発箇所法定外路面標示を整備しました。交通安全教育として、町内全小学校の4年生や高齢者を対象に、自転車免許制度を実施しております。交通安全自転車大会へ参加するなど交通安全についての興味と関心を高め、その習慣化を図ることにより交通事故防止を図りました。交通安全啓発活動として、各季の交通安全運動に加え、藤岡警察署、児玉警察署、近隣市町と連携し幹線道路において街頭啓発活動を実施しました。独自の活動として、本庄警察署長と上里町長の連名にて「交通安全広報大使」を委嘱しております。「交通安全子供歌舞伎」や「交通安全寸劇」等、楽しみながら交通安全を学ぶ活動を実施しました。	交通安全に関する活動状況を、広報かみさと、フェイスブック、上里町ホームページを通じて発信することにより、町民の交通安全に対する意識の高揚につながっております。	順調	埼玉県内でも交通事故発生率が高いことを多くの町民に認識していただき、交通事故減少の取組を行っていきます。	継続		順調	継続		継続	
52	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(1)安心安全で暮らしやすいまちづくり	④障がい者の視点に立った公共施設の利便性向上		総合政策課	町内各公共施設を障がい者も利用しやすいものにするため、6か所の施設において駐車場の青色塗装を実施。身体障がい者の方が使える駐車スペースの整備を実施した。	町内公共施設6施設において、身体障がい者用駐車スペースの整備を実施した。アンケート未実施のため効果は不明だが、件数も大幅に増やすことができている。進捗としては順調である。	順調	今後も公共施設駐車場の青色塗装を継続して実施していく。青色塗装以外にも公共施設の利便性向上に関連する事業があれば積極的に検討する。	継続		順調	継続		継続	
53	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(1)安心安全で暮らしやすいまちづくり	⑤高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるよう、見守りキーホルダーとシールの周知に努めた。		高齢者いきいき課	高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるよう、見守りキーホルダーとシールの周知に努めた。認知症又は認知症の疑いがある方や急な発作を伴う心疾患や高血圧の方に見守りキーホルダーと見守りシールを交付した。(SOSネットワークへの登録も併せて動いている。)	見守りキーホルダーとシールの交付に伴う登録者数の目標値は達成できなかったが、キーホルダーを持つことで、身元の迅速な確認が可能となり、対象高齢者が地域で暮らし続けていく上の一助となっている。	概ね順調	認知症高齢者の増加と単身及び高齢世帯の増加に伴い、地域で安心して暮らし続けることができるよう、引き続き町民の方々に広く周知していく必要がある。他の福祉サービス等も整理しながら、併せた情報提供とサービスとなるよう検討していく必要がある。	継続		概ね順調	継続		継続	
54	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(2)生涯を通じた健康づくりの支援	①住民が主役の健康づくり活動の推進	ア. 高齢者の元気づくりの応援	高齢者いきいき課	「自分の健康は自分で守る ～上里町元気度アップ大作戦～」をテーマに平成27年度より「介護予防サポーター養成講座」を年2回 8日間コースに実施している。介護予防サポーター養成講座修了後は、地域の「こむぎっちょくら健康体操」において、体操の指導や高齢者支援などを行い、高齢者の元気(健康)づくりの応援隊となっています。	目標値を大きく上回り、5年間の合計数に達している。地域のために何かしたいと考えている方や健康に興味のある方、ボランティアに興味のある方が大勢いることがわかり、また、地域の区長、民生委員等の協力も得て、区を挙げて積極的に活動をしている。	順調	町内の行政区別では、全体の6割以上の地域で取組みが行われているが、今後は全行政区での取り組みを目指している。体操の普及に伴い、引き続きサポーターの養成が必要となっているが、受講者の減少が懸念されている状況である。住民説明会や体操の立上げ支援に合せて周知していく。	継続		順調	継続		継続	
55	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(2)生涯を通じた健康づくりの支援	①住民が主役の健康づくり活動の推進	イ. 「こむぎっちょくら健康づくり」を活用した健康づくり	高齢者いきいき課	※上里町の体操「こむぎっちょくら健康づくり」とは別の体操 ➡ 介護予防を目的に高知県から始まった筋力アップ体操「いきいき百歳体操」を上里町独自の名称「こむぎっちょくら健康体操」とし、全町普及を目指しているもの。平成27年度 モデル事業を発端に 高齢化率の高い地区から声を掛けを行い、住民説明会で介護予防の重要性を説明後に体操の立ち上げ支援を行っている。町の現状を知っていただくと共に、住民の体操への認知度も上がり区長や住民の理解と協力も得られるようになった。	目標値を大きく上回り、体操の立ち上げ地区が増えるに従って、体操に取り組む高齢者が増えている。また、今まで立ち上げた地区は全て継続して実施できている。体操を通じて筋力と体力を付けるだけでなく、人との交流も図ることができるため、高齢者の心と体の健康が図られ、地域で自立した生活を送ることができると考えられる。なお、体操に取り組んでいることが「要介護等認定の軽度者の割合の上昇」の一因となっていると考えられる。(アンケートによる効果検証により)	順調	「こむぎっちょくら健康体操」に参加することは、介護予防だけでなく「地域での繋がり」にもなっている。今後は全行政区に対して住民説明会を行い、全地域で体操を立ち上げられるよう段階的に取り組んでいく。(年間6地区が目標)	継続		概ね順調	継続		継続	
56	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(2)生涯を通じた健康づくりの支援	①住民が主役の健康づくり活動の推進	イ. 「こむぎっちょくら健康づくり」を活用した健康づくり	生涯学習課	町内にある事業所へこむぎっちょくら健康づくりを実施してもらおうよう働きかけるとともに、町で行うイベント(体育祭や学校運動会、健康体力づくり推進協議会事業)においてもこむぎっちょくら健康づくりを取り入れるよう働きかけた。	事業所への周知を行った結果としては、KPI目標値の7か所には届かなかった(5か所)。しかし、事業所周知以外にも、町民体育祭や各小学校運動会、歩け歩け運動開始や地域親善フットボール大会、インディアカ大会、スポーツ少年団交流大会においてこむぎっちょくら健康づくりを取り入れたほか、事業所からの依頼を受け秋祭り等においてこむぎっちょくら健康づくりを披露するなど、様々な場面において「こむぎっちょくら健康づくり」を活用しており、少しではあるが具体的な施策で掲げている「町民の運動習慣の向上」にある程度の効果はあったと捉えている。	やや不調	やや不調ながら、様々な場面においてこむぎっちょくら健康づくりを活用することでの効果はあった。しかし、まだまだこむぎっちょくら健康づくりの周知が不足しているのは検証結果から見ており、事業所への周知をはじめ今後も様々な場面においてこむぎっちょくら健康づくりを実施してもらえよう、引き続き事業所に実施の働きかけを行うとともに、町のイベント等においても活用できるよう取り組んでいく。	継続		概ね順調	継続		継続	

NO	基本目標	基本的な方向	具体的施策(大)	具体的施策(小)	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	取組方針(自己評価)	本部の意見・評価	本部評価	取組方針(本部評価)	審議会の意見	取組方針(審議会評価)	対応
57	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(2)生涯を通じた健康づくりの支援	②多世代にわたる健康づくりの推進	ア. 各種検診事業の実施	健康保険課	がん検診は胃・肺・大腸・子宮・乳の5がん検診を個別(胃肺除く)・集団併用方式で実施。健康ガイドブックや広報等で周知する他、従来の受診動員に加えて、「新たなステージを活用したがん検診の総合支援事業」補助金を活用した個別の受診動員再動員を実施した。媒体には国立がん研究センターが開発した動員資料を使用した。国民健康保険、後期高齢者医療保険の被保険者に対し、特定健康診査や人間ドッグ受診の方への助成を行っている。40歳から80歳の5歳毎に、「歯周疾患検診」の個別検診を実施している。	「がん検診の受診率」は、目標値には達していないが、がん検診は健康増進法に位置付けられている検診である。国民の2人に1人はがんにかかると推計されているほど、国民の生命と健康を守るためにも検診は重要である。「特定健康診査の受診率」について見込みよりは実績が伸びなかったが、受診率は上昇した。個別検診に関しては、対象者全員に受診券を送付した結果、制度の周知・定着により受診者数が増加した。個別検診の伸び率は大幅に増えている。「歯周疾患検診受診率」については、平成29年4月に受診動員を行ったため、受診者が大きく増加した。	概ね順調	更なる受診率の向上を図るため、平成30年度よりすべての検診費用の自己負担を無料とし、受診動員再動員を強化する。がん検診の受診動員については昨年度に引き続き、国立がん研究センターで開発された動員資料の活用や、他の検診の受診動員と合わせて婦人がん検診の受診動員を行う。	継続	目標値を概ね達成でき、施策として一定の効果があった。今後も事業を継続し、目標達成に向けて取り組み内容を工夫していく。	概ね順調	継続	・KPI歯周疾患検診受診率に「率」だけではなく、実数も記載してほしい。 ・がん検診の受診率だが、総合的な受診率を明記すべきでは。また目標設定が低すぎる。国の目標値は50%だったと思うが。	継続	
58	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(2)生涯を通じた健康づくりの支援	②多世代にわたる健康づくりの推進	イ. 健康づくりサポーターの育成	健康保険課	健康サポーター養成講座を他の教室などの事業と同時にを行った。健康長寿埼玉モデルで、日本女子体育大学と連携し、運動教室や体力測定の実施している。	健康長寿サポーター養成講座他の事業と同時に実施することで、新規の参加者が増え、健康づくりのきっかけになったと思われる。	順調	引き続き、他事業と同時に養成講座を開催できるよう検討する。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	順調	継続		継続	
59	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(2)生涯を通じた健康づくりの支援	②多世代にわたる健康づくりの推進	ウ. データヘルスに基づく生活習慣病重症化予防対策の推進	健康保険課	糖尿病が重症化するリスクの高い未受診者・受診中断者を医療に結び付けるとともに、糖尿病性腎症で治療中の患者のうち、重症化するリスクの高い通院患者に対して保健指導を行い、人工透析への移行を防止し、高額な透析に伴う医療費の抑制を図ることを目的とした県との共同事業。埼玉県内では平成29年度47市町村が参加し、国保連合会が事業の管理を行い医療データを基に実施している。主な取組としては①未受診者、受診中断者に対して個別に受診動員通知を送付。②糖尿病性腎症で通院する患者へ、本人及びかかりつけ医の同意のある方を対象に保健指導を実施。	「糖尿病性腎症重症化対策事業」について国保連合会と協力して実施した受診動員や、保健指導により、重症化を未然に防ぐことができた。	順調	当該事業参加者における新規の透析移行者を防ぐことができた。今後も国保連合会、医師会と協力し参加者を増やし新規移行者を防げるよう事業の継続を行う	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	順調	継続		継続	
60	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(3)みんなで支えあう地域の絆づくり	①「地域力」強化への支援	ア. 地域支えあいマップの充実	町民福祉課	ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯(概ね65歳以上)で日頃の見守り活動が必要な方や災害が起きた時に自力で避難することが困難な方(高齢者や障害をお持ちの方)で支援を受けるための個人情報を提供することに同意したうえで登録していただき、地域の区長や民生委員へ情報提供を行った。	6月広報で「地域支えあいマップ」の案内記事を掲載して、事業の周知に努め、また年1回(5月中旬～7月中旬)、民生委員の担当地区で「地域支えあいマップ」に登録している方のリストを配付し、内容等の変更がないかの確認作業を行った。平成29年度は登録抹消者数が新規登録者数を上回っていたため、KPIは未達成となっている。	やや不調	登録抹消者数が新規登録者数を上回ったことよりKPIは未達成となっているが、見守り活動、災害時等の要援護者名簿として重要な役割を担うため、今後も引き続き事業を行っていく必要があると考える。登録者数を増やすための周知方法等についても検討する。	継続	目標値には至らなかったが、施策として一定の効果があるため、今後も事業を継続する。	概ね順調	継続	・災害時の死傷者は高齢者に多いため、実のあるマップの充実が必要。	継続	
61	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(3)みんなで支えあう地域の絆づくり	①「地域力」強化への支援	イ. 自主防災組織の育成	くらし安全課	モデル地区指定のための地区防災講習会を4地区で開催した。	町内の自衛消防隊を自主防災組織として位置付けており、モデルとなり得る行政区の育成のため、行政区長に協力をいただき講習会を実施している。	やや不調	結果としてKPIは達成していないが、今後についても、自主防災組織の必要性、重要性を広く理解していただくため、モデル地区の指定に向けた講習会等を継続して実施する。	継続	目標値は達成できなかったが、施策の重要性を鑑み、今後も必要に応じて取り組み方法を工夫しながら事業を継続する。	やや不調	継続	・KPIは未達成だが、今は事業として途上の段階であり、推し進めていくべき施策である。	継続	
62	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(3)みんなで支えあう地域の絆づくり	②地域でふれあう機会の充実		町民福祉課	高齢者等を中心とした地域の居場所づくりのために、各地区においてサロンの開設を支援する社会福祉協議会が進めている事業であり、平成29年度は3団体が新たにサロンを開設した。	既にサロンを発足している地区の効果や情報、反響が広がっており、KPIを大きく達成している。	順調	まだ発足されていない地区への働きかけを行い、既に開設している地区では、サロンの活動が継続して行われるように支援を行う。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	順調	継続		継続	
63	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(3)みんなで支えあう地域の絆づくり	③ふるさとを知り、地域を大切に作る機運の醸成		生涯学習課	郷土(ふるさと)の歴史を学ぶとして、「上里町の郷土芸能八町河原の獅子舞」昭和50年の記録、「大正時代の七本木」七本木郷土誌に書かれた暮らしと産業、「上里町の地名と伝説」の3回講座と、行政をもっと知ろう出前講座(給食編)として、本庄上里給食センターに見学に行き試食会も行った。	郷土の歴史を学び、地域の絆や支え合いが今現在まで続いてきていることが再認識でき、また出前講座では「食の安全」「食育の推進」「地域の安全」について学べ、ふるさと学習者数は155人とKPIを達成しており、ふるさとを知り、地域を大切にするという点では予定通り実行できている。	概ね順調	行政をもっと知ろう出前講座により、ふるさとのことをみんなで学習し、支え合い安心して暮らせる地域がつかれるよう、事業を継続実施する。また、歴史教室において、フィールドワーク(現地調査)等の必要性についても検討する。	継続	目標値にも届いており、施策として効果があった。今後も事業を継続しつつ、必要に応じて取り組み方法を工夫し、更なる発展を目指す。	概ね順調	継続		継続	

NO	基本目標	基本的な方向	具体的施策(大)	具体的施策(小)	担当課	具体的な取組の内容	施策の進捗等	自己評価	今後の考え方	取組方針 (自己評価)	本部の意見・評価	本部評価	取組方針 (本部評価)	審議会の意見	取組方針 (審議会 評価)	対応
64	4. 時代の変化に対応し、安心してらせる地域をつくる	(4) 地域公共交通の充実	①上里町コミュニティバスの運行		総合政策課	平成28年3月から、上里町コミュニティバス「こむぎっちゃん」の運行を開始した。平成29年度で運行開始2年となる。運行開始以降継続して利便性向上のために停留所の移設、団体向け乗り方説明会等、様々な改善事業を行っている。	利便性向上のため、団体向け乗り方説明会等様々なサービスを実施した。利用者は増加したが、目標値達成のためにはより効果的な手法の模索が必要である。	やや不調	アンケート等で把握した町民のニーズに応えられるよう、バス会社と調整し、より利便性の高い公共交通になるよう改善策(フリー降車制度の導入時)を実施していく。	継続	目標値には至らなかったが、施策として一定の効果があるため、今後も事業を継続する。	やや不調	継続	・フリー降車の導入には様々なリスクがある。適切なリスク対策を求める。 ・5年契約ということだが、別の運行形態の検討もするべき。 ・ルート外の町民にメリットがない。 ・神保原駅は唯一の公共交通機関、コミュニティバスの駅直行便を考えるとどうか。町内に学校や職場の少ない中で、利用しやすい駅にならない限り定着は望めないと思う。バスの時間帯・コースが決め手となる。利用者の少ない昼間より効果は大きいと思う。 ・元気な老人は停留所まで出てくさいという主旨に思う。今後老人が増加する。足腰が弱く、杖を使用する歩行者も増える。利用者を第一に考えて見直し計画を。出来たら老人宅玄関口まで通れるよう。乗車金額が考慮されるが多少高くなっても楽ならいいのでは。運行車両を社会福祉法人の車両にし、デイサービスの方々が入寮した後の空き時間をコミュニティバスとして老人の皆様が利用するシステムはどうか。利用者は受付集約所(例:社協)に申込み、事前に利用を連絡して受付場所で一定のルートの人員を調整して連絡運行する、というシステムで外周地区(例:長幡、賀美地区)を運行しては。	継続	